

令和2年度第4回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 令和3年3月19日(金)午前10時～11時40分
- 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館21・22・23会議室
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 8名
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 24名
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人

(午前10時 開会)

1 開会 (全体進行:コミュニティ推進課長)

2 挨拶 (委員長)

3 意見交換等 (座長:委員長)

(1)第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画について
(事務局) 資料No.1、資料No.1(追加)により説明

(A 委員)

これまでの5年間の積み重ねが、第2期計画にあらわれていると思う。特に、P27のイメージ図が分かりやすく、住民の皆さんが協力しようかというイメージ図になっている。この計画を住民の皆さんから理解いただけるように、ポスターを作成して、コミセンや公民館等の常日頃の地域作りのときに目の付くところに掲示して、地域住民と盛り上げていくようにしてはどうか。

(B 委員)

ポスターは啓発のポスターであるか。5年後の鶴岡市のビジョンを小学生でも分かる様に、図式化して作成してはどうか。

(委員長)

計画を作って終わりではなく、第2期は周知、啓発に努め、誰にでも分かりやすく、楽しい雰囲気が出るよう、プラスの発信になると良い。

(B 委員)

3.11から10年を迎え、防災の意識が高まっているが、鶴岡市はどの様に防災に取り組んできたか。コミセンの現場にいて、明日来るかもしれない災害に対処できるか不安もある。

防災に関連してもう1点、市から自主避難先リストの作成依頼があったが、災害の時、市の担当者がリストをもとに避難先を確認するのか。

コロナ禍で一番進んだのはSNSの活用で、ラインでつながった人が大勢いるが、災害時、スマホを持っていない人との様に連絡をとればよいか。今年は、避難訓練でいかに早く安否確認が取れるかをやる予定である。

(防災安全課長)

防災意識の啓発について、地震や大雨が激震化、頻発化している中で、自分の身体は自分で守ってほしいと訴えながら進めている。今年度はコロナ禍で、避難所運営も今迄の様にはできないので、密にならないよう公民館等活用しての分散避難を呼びかける中で、誰がどこにいるのか分からなくならないように名簿の作成をお願いした。提出先は市となっているが、町内会等自主防災組織として、誰がどこに逃げるかを把握していただきたいと考えている。

公助の部分として、今年度は備品として段ボールベッドなどを購入し、万が一の時、少しでも快適環境の中で対応できるよう準備した。

実際には、コミセン、自治振興会等を窓口にも、町内会からの情報収集、そして市への情報伝達の仕組み等を確認しながら、どうやって逃げるか、ハザードマップを再確認して頂くような働き掛けをしていきたい。

(B 委員)

コミセン側からすると、備品の配置が分からない。避難所備品を市はどこまで準備できているのか、これから準備するのか、いつまで準備できるのかなど教えていただきたい。それが分かれば、コミセンとしても防災計画を作れると思う。

(委員長)

災害時の要支援者台帳の作成もずっと言われてきた事だが、東日本大震災の時も、行政も被災し、金庫の中の台帳は使えなかった。個人情報保護法の壁もあるが、いざというときに活用できるように進めて頂きたい。

また、防災において、自助・共助・公助が大事であることは住民も分かっている。公助で出来ない事が分かれば、共助なのか、自助なのかの議論を進めるためにも、また、地域の防災計画を立てるときの議論を進めるためにも、情報を共有していただきたい。

計画の中でも、全ての地域で、5年前よりも防災が重要な関心事になっている。水害が多いので、他人事ではないという意識が高まっているし、P27 のイメージ図のとおり、防災が福祉にも、他の分野にもつながっているという認識が高まっているので、B 委員の意見もくみ取って欲しい。

(B 委員)

災害で SNS が繋がらない場合、繋がる方法は無線しかないのでは、各自治会に 1 台でも置いてほしい。

(A 委員)

関連して私個人の話だが、市の地域防災のアドバイザーになっており、防災安全課の職員と町内会や振興会等に出向いている。私自身、新潟中越地震の避難者であり、その体験を活かして 3.11 の時もボランティア活動をしたり、これまでの積み重ねを活かして、地域と一緒に考えたりしている。先日大泉地区から呼ばれ、行く前に川や崖の状況を見たり、ハザードマップの確認をしたりして、アドバイスしている。

(委員長)

市ではデジタル化をどう進めていくのか。地域コミュニティ推進計画にも深く関わってくると感じている。特に山間部や沿岸部においては、デジタルが命綱になるようにも思われる。市の他の計画と連動しながらこの計画を進めて行けると良い。

(C 委員)

一昨年の 6.18 に山形県沖地震があった。避難袋を準備していても、5～10 分では身体のみ逃げるのが精一杯で、車での避難はダメと言われたが、足の悪い方は車に乗せて避難した。避難訓練では、整列し、点呼確認していたが、現実はそうではなく、防災無線も最初の一報のみで、その後広報車が来たので不安は無かったが、個人個人の防災教育が大事で、災害の状況が夜だったり、冬だったり、条件が違うと計画通りにはいかないことを痛感した。地震後、温海地域で女性を目線でアンケートを実施したところ、犬がいたり、お年寄りがいたりしたけれども、無事に避難することができていた。冬であれば、防寒対策も必要であるし、本番に強い防災を作って頂きたい。

(D 委員)

山形県沖地震や水害等の被害を経験している C 委員の話は、自治会の代表者として身につまされる想いである。市では、地域の防災計画を 3 月 31 日まで作るように計画しているが、自治会やコミュニティの一番の役目は、地域住民の安全、安心を確保することであると考えている。防災計画は非常に大切であり、いろんな角度から練り直している。実効性のある防災計画を作るには、日々の積み重ねが重要であり、会長会の研修においても防災ベッドを自分達で組み立てるとか、簡易トイレを作るとか、一つずつやって行く事が大事である。小学校に防災倉庫を建設しているが、備品台帳を備え付け、どこに何があるのか、自分達の責任でやって行く。自助・公助・共助とあるが、住民意識を高める努力を日々やっていく事が自治会長の役目であると考え、その意気込みでやっていきたい。

(E 委員)

私は、社会的ネットワークとか人との人的つながりが行動にどう作用するか研究しているが、卒業研究で 10 年程前の秋田県の川の水害の時、どんな人が避難して、どんな人が避難しなかったかを研究した学生がいた。結果は、逃げたのは、普段人づき合いが無い人や周りの人とあまり仲良くない人で、日頃から周りとは仲良くしている人は逃げなかった。皆で避難について議論している人たちの方が避難行動につながると想定していたが、そうではなかった。皆と仲良くしている人の方が、「別に避難しなくても平気だよ」と正常性バイアスが働きやすいことが考えられるので、自助の部分はどう高めていくかが大事と思う。

(A 委員)

コロナ禍で課題も見えてきた。

どの様なコミュニティを作っていくかを議論した。去年は運動会を中止したが、各競技の 3 密対策はじめ、テントの中や開閉会式など、全てのスケジュールについてコロナ対策をしながら実施する方法を議論した。今年の開催は無理だったとしても、この議論は数年後役に立つと思う。

学習支援室を開催しているが、子ども達を集めて机を並べるので感染を心配したが、大切なのは、子どもたちを核としたコミュニティをどう作り上げるかであり、ただイベントをやるのではなく、心の豊かさ、つながりを子どもたちにどう教えるか。子どもを核としたコミュニティの形成が課題の 2 つ目である。

また、高齢者詐欺問題等もあり、市と警察からは多くの情報が流れてくるが、キャッチしなければ伝わらない。団塊世代の年寄りが増えていくので、デジタル化したコミュニティの確立が必要であると考えている。

コロナ禍で課題がはっきり見えたので、地区に戻って推進計画を考えていきたい。

(委員長)

コミュニティ形成について、課題を3点あげて頂いた。1つめ、コロナ禍でどうやってコミュニティを作っていくか。2つめ、子どもを核としたコミュニティで、明るく、夢を共有したい。3つめ、コミュニティのデジタル化で、実際には難しいかもしれないが、避けては通れないという共通認識があるだろう。

(F 委員)

P27の連携イメージ図、とても分かりやすく、社協が進めている地域福祉と重なる部分が多いと感じている。社協では地区毎に担当のコミュニティソーシャルワーカーを決めて、コミュニティ組織と積極的に連携を図りながら進めていきたい。

(G 委員)

防災に関係して、我が学区の無線が壊れたので、変わるものとして学区でフェイスブックを立ち上げてやっているが、閲覧者は非常に少なく、いざという時にどうしたら良いか分からない。市のHPでは、コロナ対策なども情報発信していると思うが、アクセス数はどうか。

(コミュニティ推進課長)

市の情報発信として、HP、ツイッター、フェイスブック等あるが、アクセス件数等は後程回答したい^(注)。防災に関しても、様々な媒体を通して周知に努めている。

^(注) 市の情報発信等			
①市公式HP			
期間	アクセス数	内「新型コロナウイルス感染症情報」	内「防災緊急情報」
令和2年度	7,471,060	375,174	160,081
内令和3年3月	601,180	46,620	2,685
②市公式ツイッター 運用開始 令和2年12月21日、フォロワー数1,494人(令和3年3月末現在)			
③市公式フェイスブック 運用開始 平成27年5月18日、フォロワー数2,451人(令和3年3月末現在)			
④市公式ユーチューブチャンネル 運用開始 令和2年4月7日、チャンネル登録者数200人(令和3年3月末現在)			

(B 委員)

コミュニティ活動をしていて常々思うのだが、住民主体とは何なのか。地域を良くしたいと思っている人は大勢いるが、地域を良くするには、エネルギーと覚悟と実行のための費用が必要。やる気のあ地域にお金を投入すれば地域は光るのではないか。

(委員長)

地域づくりが進まない地域をどうしたらいいのかが、次の5年間の課題である。引続きの検討が必要である。

計画内容の変更点は出なかったが、前に進む志向で、アクションに向かう方向で話が進められた。計画はパブリックコメントの意見を踏まえて、最終形となる。

(2)市のコミュニティ施策について
(事務局) 資料No.5,6,7,8,9により説明

(委員長)

コロナ禍で新しい取組が行われている事が確認できた。羽黒は子どもを中心とした新規企画、朝日でも新しい動きが始まろうとしている。外との交流が途絶えた分、地域内の連携が進んでいる。温海は地域資源を活用してつないでいる。地域の皆さんも悩みながら頑張られていると確認できた。

(B 委員)

敬老会の助成金が単位自治会に振り込まれているが、直接、広域組織に交付できないか。

(事務局)

総合交付金は、それぞれの町内会・住民会の課題に応じた活用の仕方をして頂いており、敬老会分についても同様である。地域によっては、コミセン単位で敬老会を実施している地区もあり、そういう地区ではコミセンに代理受領という形でお渡しすることも可能で、地区と町内会・住民会の協議・検討が必要になる。

(A 委員)

各自治会に推進計画が配布され、説明をし、進めていくことになるが、P29以降にそれぞれ20項目程度の取組例が示されている。各組織にあったテーマを選び、取り組むが、テーマ設定表を作成していただき、取組例の優先順位を示してもらえると進めやすいと思う。

(委員長)

マトリックス図で優先順位が分かるようにして、何年度の取組事項を自覚できるように促して頂きたい。あわせて、P61の単年度ごとに評価をするのであれば、年度当初に何に取り組むのか書いてもらい、年度の終わりにどうだったかを書いてもらうのが一般的である。

(D 委員)

最後は人づくりであり、子どもを交えた取組をやって行く事が非常に大事である。各地域で祭典等があるが、コロナ禍で祭典は神事のみ行っている。運動会、球技大会等は、子どもを巻き込んでPTA、地域の方々が一緒になってコミュニティを作っていく大事な行事であるが、危惧される状況になっている。そのような中、子どもの夢を大事にしたいと子ども活性化プロジェクトの中で、弁天島周辺をイルミネーションで飾るという、子どもの夢や意見を取り入れた取組を進めている。財政的支援は無いが、市の職員や観光協会、商工会、漁協などから人的支援をいただき、子どもを交えてイルミネーションの試験点灯をする事が出来、皆から喜んでもらった。今年の夏には、イルミネーションで夜を照らして、明るく過ごしたい。10年後、子どもの人数が激減することを考えると、子どもを交えた取組がこれからのコミュニティを推進していく上で一番大切であると考えている。

(委員長)

地域の取組紹介であったが、子どもがキーワードになっている。計画の中では、若者や女性という言葉が5年前に比べて積極的に用いられている。コロナ禍で地元の高校生も頑張っていて、時代は変わってきているので、計画の取組状況を検証する際の指標に、是非子どもも入れて頂きたい。

4 閉会 (市民部長)